

研究者リーダーシップ・プログラム

「第5回 研究者にとってのタイムマネジメント」参加レポート

本プログラムの第5回は、講師の福島清誠氏と受講生との対話を通して、「タイムマネジメント」について思いを巡らす絶好の機会となった。今回の講座で話題になったのは、主に以下の3点である。

- ① タイムマネジメントに取り組む意義とその効果や重要性
- ② タイムマネジメントを実現するための具体的な手だてや手法
- ③ 時間のコントロールを阻害する要因とそれへの対処法

今講座では、タイムマネジメントを効果的に実施する手だてとして、タスクを細分化して行うべきことを可視化すること、ならびに、タスクを緊急度と重要度から検討して行うべきことの優先順位を決定することが示された。私は、ここに、タスクの難易度を考慮する必要性を加えたい。当該タスクを遂行するために必要なリソースに鑑みて、それを敢行するための難易度を考慮することは、物事の優先順位を決定する際の重要な要因になり得ると考えたからである。

ところで、時間のコントロールを阻害する要因の一つである「構造的な問題」への対処法として、「無駄の排除」が紹介された。確かに、無理や無駄な事柄を事前に把握し、その排除や軽減を図ることによって、より大きな効果が得られることは想像に難くない。とりわけ、市場原理による効率化が最優先される産業界では、その傾向が顕著である。しかしながら、「無用の用」が示す通り、一見すると無駄に見える事柄の中にも物事の本質に迫る重要な視点が隠されていることはしばしばあるし、それがイノベーションに至った事例も枚挙に暇がない。表面的な要不要のみで物事を判断することを慎み、その本質に迫る思考が特に重要であると考ええる。

今講座に限らず、このプログラムで取り扱われている「リーダーシップ」は、組織やチームを主導する立場の者に限った能力ではなく、全ての構成員に必要な資質であると感じている。これまでもしばしば指摘されてきたように、社会生活を営む人間にとっての重要な「リテラシー」として、全ての者に、様々な機会を通して涵養していく必要があるだろう。

(鈴木 正幸・名古屋大学大学院教育発達科学研究科 研究員)